

McDonald's CSR Report 2020





会社概要

日本マクドナルド株式会社

所 在 地 〒163-1339 東京都新宿区西新宿6-5-1 新宿アーランドタワー
設 立 1971年（昭和46年）5月1日
資 本 金 1億円
事 業 内 容 ハンバーガー・レストラン・チェーンの営業並びにそれに付帯する一切の事業
店 舗 数 2,924店
売 上 高 5,892億円（直営店・フランチャイズ店合計売上）
社 員 数 2,194名（契約社員を除く）
アルバイト従業員／約17万名（直営店・フランチャイズ店合計）（2020年12月31日現在）

企業情報

経営理念、会社概要、沿革・歴史、等は日本マクドナルドホールディングス株式会社
ホームページの企業情報／コーポレート・ガバナンスをご確認ください。

企業情報

<https://www.mcd-holdings.co.jp/company/>



コーポレート・ガバナンス

<https://www.mcd-holdings.co.jp/ir/governance/>



企業理念

レストラン・ビジネスの考え方

おいしさと笑顔を地域の皆さんに。お客様だけではなく、従業員、そして地域の皆さんに
笑顔になっていただくことがマクドナルドの存在意義です。

QSC&Vを基盤に、従業員一人ひとりがマクドナルドの価値観を理解、共感、体現することで、
「おいしさとFeel-Goodなモーメントを、いつでもどこでもすべての人に。」お届けします。

<https://www.mcdonalds.co.jp/company/outline/rinen/>



編集方針

本レポートは、日本マクドナルドが取り組んでいるCSR（企業の社会的責任）について、
その活動内容を報告しています。マクドナルドのCSRおよびそれに関連する取り組みを
開示することにより、多くのステークホルダーの皆さんと情報を共有し、
持続可能な社会につながればと考えてあります。

報告の対象範囲ほか

報告対象組織 日本マクドナルド株式会社（一部日本マクドナルドホールディングス株式会社を含む）

報告対象期間 2020年1月1日～2020年12月31日

報告対象分野 社会的責任関連全般

作成部・連絡先 コミュニケーション&CR本部

〒163-1339 東京都新宿区西新宿6-5-1 新宿アーランドタワー

Contents

1 会社概要・企業情報・企業理念・
編集方針ほか

2 Top Message

3 マクドナルドのCSRの考え方

4 2020 Topics

- 食の安全・安心
- 雇用情報
- 環境情報
- 社会貢献

8 Food 食の安全・安心

- 生産地から店舗までの品質保証体制
- 食材の管理とサプライヤー基本原則
- アレルギー・栄養・原産国情報

11 Planet 環境対応

- 環境保全
- 廃棄物対策
- エネルギー＆気候変動対策
- 環境データ推移

15 Community 社会貢献活動

- 私たちの社会的責任

17 People 雇用と人材

- 人材の考え方と取り組み

19 SDGsとマクドナルド

20 第三者意見

新型コロナウイルス感染拡大防止の
取り組みとお知らせ

<https://www.mcdonalds.co.jp/company/news/200304a/>



Top Message

2020年は、新型コロナウイルスの感染拡大によって、社会が大変大きな転換を強いられた年となりました。マクドナルドでは、お客様や従業員の安全と健康を最優先に、すべてのお客様にいつでも最高のお食事体験をご提供することを目指しながら、新型コロナウイルスの感染拡大防止に日々取り組み、安全・安心をさらに強化してまいりました。ステークホルダーの皆さんには多大なるご協力、ご尽力をいただきましたことに心から感謝申し上げます。

このような状況の中、あらためてマクドナルドの社会的役割と責任について認識いたしました。それは、「おいしさと笑顔を地域の皆さんに」、安全・安心、高品質でおいしい商品を快適な環境でご提供すること、そして、社会と共にあることを常に意識した持続可能な事業の追求と実行です。私たちは、「環境・社会・ガバナンス(ESG)」のさまざまな課題について責任を果たすべく、店舗運営をはじめとする、食材や資材の調達、環境負荷の削減、地域社会への貢献などの活動に注力し、世界的なアジェンダである国際連合による「持続可能な開発目標(SDGs)」の達成に向けて、私たちの持つ強みと規模を活かした取り組みを展開しています。具体的な活動については、本レポートをご確認ください。

本レポートでは「Food (食)」、「Planet (環境)」、「Community (社会貢献)」、「People (人材)」の4つのカテゴリーに分けてご説明しています。本レポートで私たちの社会的責任についての考え方と取り組みをご理解いただけましたら幸いです。



日本マクドナルド株式会社
代表取締役社長兼CEO

日色 保





マクドナルドのCSRの考え方

企業の社会的責任を果たすとは、
企業自らの社会的役割と責任を自覚し、
社会との持続的な関係を維持し、
社会からの期待や要請に応えることです。
その社会との具体的なかかわりは、
ステークホルダー（利害関係者）との関係から知ることができます。
そして、この関係からマクドナルドのCSRの考え方が導かれています。



ステークホルダーとの関係から、私たちの社会的責任のあり方が具体的に見えてきます。私たちはレストラン・ビジネスを展開していますので、食に関する社会的責任は大きなものがあります。また、マクドナルドはピープルビジネスであると考えており、社員やクルーに対する社会的責任も重要です。地域社会に対する姿勢は、マクドナルドの創業者であるレイ・クロックの「私たちをいつも支えてくださっている地域の皆さまへお返しをする義務がある」という言葉に象徴され、具体的な活動につながっています。そして、事業活動を行う上で発生する環境負荷削減の取り組みは、さまざまな環境問題に対する喫緊の社会的責任です。これらの社会との関係をふまえ、私たちは4つのカテゴリーに注力して取り組みを行っています。

Food

食の安全・安心、
持続可能な食材の調達、衛生管理

Planet

環境保全、廃棄物対策、
エネルギー対策（気候変動対策）

Community

社会貢献および支援活動

People

多様な人材の活用と働き方の推進、
キャリア開発の推進

そして、これらの基盤が **コーポレート・ガバナンス** であり、
マクドナルドの理念である **QSC&V** です。

食の安全・安心

基本理念

私たちは、食の安全をすべてに優先させます。そのために世界最高の食品管理システムを目指して、マクドナルドはたゆまぬ努力を続けていきます。この理念を店舗からサプライヤーの皆さままでマクドナルドにかかわるすべての人々と共有し、倫理的で誠実な行動によって、安全かつ最高のおいしさと品質を提供してまいります。



店舗の衛生管理の取り組み

私たちは、お客様に安心してマクドナルドをご利用いただけるよう、日頃から健康や身だしなみ、そして手洗いや客席の清潔さに気を配り、衛生管理を徹底しています。

感染症対策を強化

2020年は新型コロナウイルスが流行し、感染症対策がより重要になりました。マクドナルドでは日頃から行っている手洗い、健康チェック、調理器具の洗浄・殺菌等に加えて、従業員はその日の体温を計測し、マスクを着用して業務にあたっています。お客様にもご利用いただける手指消毒用のアルコールを店頭・店内に設置し、またソーシャルディスタンスや客席の換気に努めています。



新型コロナウイルス感染拡大防止の取り組みとお知らせ
<https://www.mcdonalds.co.jp/company/news/200304a/>

店舗の安全・安心を支える取り組み

店舗における食材の管理・調理・販売にいたる衛生管理は私たちにとって果たすべき重要な責任です。原材料の温度管理、調理時の温度計測はもちろんのこと、水質チェックやフライオイルの劣化測定などさまざまな検査を行い、日々安全性の確認を行っています。また、従業員が食品安全について正しく理解し実行できるように、各種マニュアルやe-learningによる学習の機会を提供しています。店舗の衛生管理が適切に実行されていることを確認するために、第三者の専門機関による定期的な監査も実施しています。



https://www.mcdonalds.co.jp/scale_for_good/our_food/sanitation/

「デジタルフードセーフティ」を店舗に導入開始

お客様に安全で安心な商品をご提供するために、毎日店舗で行っている温度計測や衛生管理を、従来の「紙」ベースから正確で効率的なタブレット端末を利用した「デジタル」での実施に移行しました。独自に開発した「デジタルフードセーフティシステム」の導入により、タブレット端末とBluetooth対応温度計を用いた食品の温度計測、衛生管理、清潔な厨房環境の維持、調理手順、従業員の行動確認など、多岐にわたるチェックポイントを効率的かつ正確に実施することが可能となりました。万が一のことがあつた際も、記録を速やかに確認し、原因の解明と対応が可能となります。



<https://www.mcdonalds.co.jp/company/news/2020/1001a/>

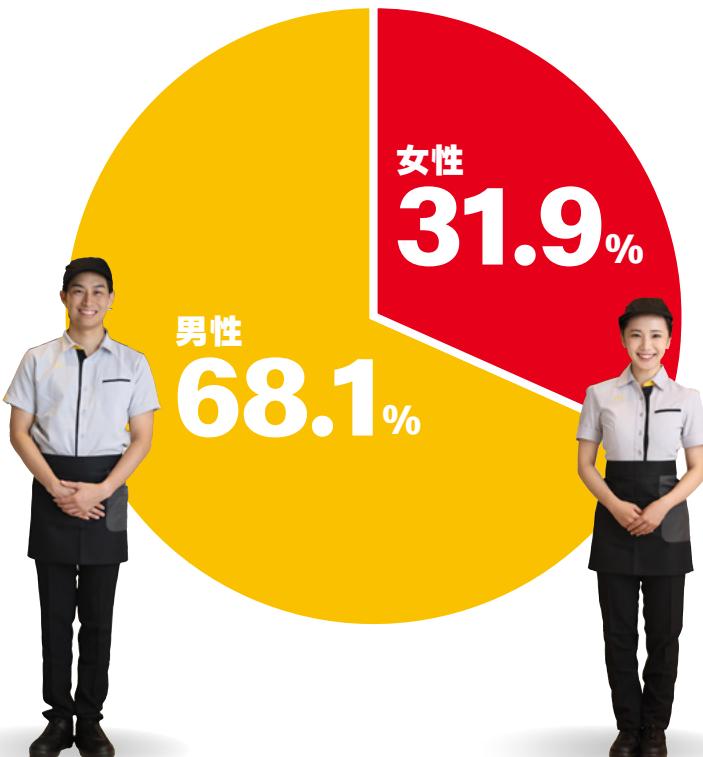


雇用情報

2020年12月末現在

基本理念

“マクドナルドは、世界中どの街でも、ベストな雇用主となる”。これを達成するために、マクドナルドはすべての従業員に対して「マクドナルドは従業員の皆さんとその成長および貢献を、価値あるものとして大切にします。」と約束しています。



全社員数（正社員）

2,194名



28.8%



26.8%



12.0%

全国クルー人数

約170,000名



出産・介護休暇制度
利用者

68名

育児短時間勤務制度
利用者

37名

障がい者雇用比率

2.29%

全社員月間平均
残業時間

19.5時間

離職率

6.5%



環境情報

基本理念

“地球のことを考えて行動する”。事業活動を行う際には、必ず地球環境にさまざまな負荷をかけています。いかにその負荷を減らすかを常に考えて行動することを基本理念としています。

全店総廃棄物量

143,900t/年 対前年比
+3.4%

食品リサイクル率

58.9%

※ 食品リサイクル定期報告に基づく発生抑制を含む。

全店電気・ガス・水道使用量

電気 **62,592万kWh/年** 対前年比
▲3.5%

ガス* **3,200万m³/年** 対前年比
▲1.5% ※都市ガス換算

水道 **432.8万トン/年** 対前年比
▲12.0%

おもちゃリサイクル2020

遊ばなくなつたハッピーセットのおもちゃを全国の店舗で回収しリサイクルするプロジェクトを2018年・2019年に引き続き2020年も実施しました。回収したおもちゃは約270万個、リサイクルトレイなどに再生利用されました。



https://www.mcdonalds.co.jp/family/toy_recycle/



「マックデリバリーサービス」で 「電動3輪バイク」を導入

利便性・安全性に加え、より環境に配慮した宅配サービスを目指して、「マックデリバリーサービス」の宅配バイクとして「電動3輪バイク」を導入しました。CO₂削減効果は、一台あたり年間約1t-CO₂*となります。



※月間走行距離
1,000km、燃費
25km/Lと想定
(aidea社 ホームページより)

<https://www.mcdonalds.co.jp/company/news/2020/1105a/>



川崎市・昭和電工・日本マクドナルドで 「プラスチック資源循環」 実証事業

川崎市内の8店舗から排出されるプラスチックを昭和電工のケミカルリサイクル施設で水素にリサイクルして発電し、マクドナルド川崎南加瀬店の電動バイク用エネルギーとして利用する実証事業です。ケミカルリサイクルによるCO₂削減効果の検証、技術的・営業上の課題、回収・運搬の効率化などを検証します。



<https://www.mcdonalds.co.jp/company/news/2020/1130a/>



日本バイオマス製品推進協議会より 「バイオマス製品 普及推進功績賞」を受賞

プラスチック製レジ袋の先進的バイオマス化の取り組みが評価され、日本バイオマス製品推進協議会（事務局：一般社団法人日本有機資源協会）より「バイオマス製品普及推進功績賞」を受賞しました。



2020 Topics

社会貢献

基本理念

「私たちをいつも支えてくださっている地域の皆さまへお返しをする義務がある」、これはマクドナルド創業者であるレイ・クロックの言葉です。この言葉を原点として、私たちは社会貢献活動を真摯に考え、取り組んできました。より良い社会とたくさんの笑顔を願って、未来を担う子供たちの健全な成長を支える「食」「体」「心」を育む支援活動から、地域の一員としての活動まで、幅広い社会貢献活動を展開しています。

チャリティ

ドナルド・マクドナルド・ハウス支援

店頭募金、募金付きクーポン、マックハッピーデーによる募金

総額 約1億1,470万円



医療従事者の皆さまへの支援

ドナルド・マクドナルド・ハウスが隣接する全国11の医療機関をはじめとする、地域医療を支える医療機関へ、マスクや飲食料といった物資*や温かいお食事のお届け、マクドナルドご利用いただける特別ご招待券の贈呈を実施しました。

* 賛同してくださったサプライヤー各社様からのご提供分を含みます。



スポーツ支援

高円宮賜杯 全日本学童軟式野球大会 マクドナルド・トーナメント



**全国約11,000チーム
約22万人**



https://www.mcdonalds.co.jp/scale_for_good/our_communities/sports/mcd_tournament/

※ 2020年は新型コロナウイルスの影響により都道府県大会は延期や一部中止、全国大会は中止となりました。

JFA 全日本U-12 サッカー選手権大会



**全国約8,300チーム
約24万人**



https://www.mcdonalds.co.jp/scale_for_good/our_communities/sports/football/



地域貢献

安全笛贈呈数

約828,600個

※ 2020年12月末時点



https://www.mcdonalds.co.jp/scale_for_good/our_communities/community_relations/

教育支援

小学校の食育授業支援

オリジナルで制作した小学校向けデジタル教材を通じて小学校の食育授業を支援しています。2019年にリニューアルした教材「食育の時間+(プラス)」のひとつ「テーマ7：食品ロスを考えよう」が、「消費者教育教材資料表彰2020 消費者教育支援センター理事長賞」(公益財団法人消費者教育支援センター)を受賞いたしました。

教材を使った授業・指導実施回数

のべ7,837回



受講児童・生徒数

のべ234,795名

※ 2007年1月～2020年12月末までの判断数累計



https://www.mcdonalds.co.jp/scale_for_good/our_communities/food_education_support/



ほんのハッピーセット

子供たちが気軽に本に触れる機会を増やすと共に、読み聞かせを通じた親子のコミュニケーションの時間を生み出したいとの想いで、おもちゃだけではなく、絵本とミニ図鑑も選択肢に加えた「ほんのハッピーセット」を展開しています。

絵本・図鑑の累計配布数

2500万冊以上



<https://www.mcdonalds.co.jp/family/happysset/>

Food

食の安全・安心

生産地から店舗までの 品質保証体制

私たちがお客様へ提供する商品は、生産地から加工工場を経た食材が物流によって店舗に運ばれ、店舗で調理されたものです。この生産地、加工工場、物流、店舗に至る品質保証は国際規格に基づいた独自の品質・食品安全マネジメントシステムによって管理されています。



https://www.mcdonalds.co.jp/scale_for_good/our_food/food_safety/food_management/



トレーサビリティ

原材料から最終製品までの全工程の生産履歴を追求できるシステムを持っています。これにより、万が一のトラブルに対して速やかな対応と原因の追求を可能にしています。

https://www.mcdonalds.co.jp/scale_for_good/our_food/food_safety/quality_management/



農場

MGG ^{※1}

農地評価

水質管理

農薬・施肥管理



加工

SQMS ^{※2}

HACCP（製造）

GMP

製品検査プログラム



物流／倉庫

DQMP ^{※3}

HACCP（物流）

GWP・GDP

QIP（品質検査プログラム）



店舗

ROIP ^{※4}

HACCP（店舗）

GCP

SSOP

など

など

など

など

監査プログラムによるシステムの有効性確認



※1 MGG：マクドナルド農業生産工程管理 ※2 SQMS：サプライヤー品質マネジメントシステム ※3 DQMP：物流倉庫品質マネジメントプログラム
※4 ROIP：店舗オペレーション改善プロセス

Food

食の安全・安心

食材の管理と サプライヤー基本原則



https://www.mcdonalds.co.jp/scale_for_good/our_food/food_safety/food_management/

サプライヤーとのパートナーシップが 「責任ある調達」の基本

「責任ある調達」を行うためには、まず高品質な食材を生産する姿勢、技術、管理、社会的責任性を持つサプライヤーの存在が必須となります。そのために、私たちはサプライヤーに「サプライヤー行動規範」の遵守を求めています。これはサプライヤーがマクドナルドとパートナーシップを組むための基本原則で、関係法令、人権、労働環境、環境保全、事業経営の完全性が規定されています。

行動規範の具体的な内容は「サプライヤー職場環境管理プログラム (SWA)」としてまとめられ、それに基づく実行と維持がサプライヤーに求められます。

サプライヤー行動規範

関連法令の
遵守

人権

労働環境

環境保全

事業運営の
完全性



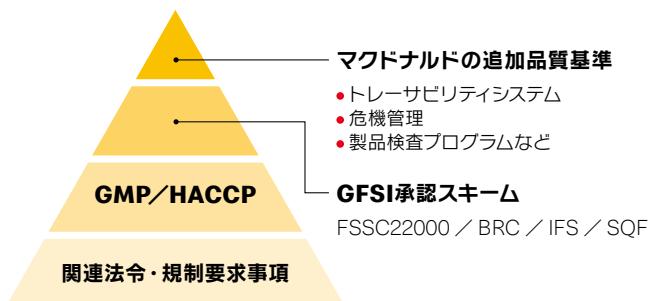
サプライヤー職場環境管理プログラム (SWA)

行動規範の着実な実行と維持のため、監査制度を導入したプログラム



食材の製造工程管理

食材の安全性と品質の確保は私たちの最優先事項です。そのため、官能評価、微生物検査、理化学検査などさまざまな検証・確認が実施されています。そして、製造工程の管理については、マクドナルドサプライヤー品質マネジメントシステム (SQMS) によって実施されています。これは、関連法令・規制要求事項をベースに世界食品安全イニシアチブ (GFSI) に準拠した食品安全管理システムにマクドナルドの追加品質基準を加えたものです。



アニマルヘルス & ウエルフェア

動物の健康と福祉

私たちはサプライチェーン内の動物の健康と福祉に配慮し、一部の種で実施しています。私たちはサプライチェーンにおけるアニマルヘルス & ウエルフェアをどのように改善するかについて透明性のある情報を提供するという私たちの責任を真剣に受け止めています。

私たちのグローバル規模のサプライチェーンを活用することで、マクドナルドの取り組みを共有する牛肉、鶏肉、豚肉などの生産者の支援を得て、アニマルヘルス & ウエルフェアについての前向きな変化を促進しています。

GAP 農業生産工程管理

2010年よりレタス生産者とマクドナルドGAP認証取得の取り組みを開始しており、2019年からはGFSIにペンチマークされているGlobalG.A.P.とマクドナルドGAPを合わせたGlobal G.A.P.Plusを導入しています。その中には、土壌や使用する水についての調査、適切な畑の管理、農薬の取り扱いなど、生産工程を管理するための100を超える要求項目があり、このきめ細やかさが食の安全をより確実なものにしています。



Food

食の安全・安心



アレルギー・栄養・原産国情報

皆さんに安心しておいしく召し上がっていただくために、商品のアレルギー・栄養・原産国情報を公式ウェブサイトおよび公式アプリでお知らせしています。商品のパッケージに付いているQRコードをご利用いただくと簡単にご確認いただけます。「栄養バランスチェック」「アレルギー検索」は、メニュー選びの際に役立てください。



https://www.mcdonalds.co.jp/scale_for_good_our_food/allergy_Nutrition/



アレルギー・栄養・原産国情報

アレルギー情報

日本の食品表示基準(食品表示法)にて表示が義務付けられている特定原材料7品目と表示が推奨されている21品目を対象としてお知らせしています(2020年12月現在)。原材料の仕様変更や製造・調理過程における混入などを随時反映し、常に最新の情報をご提供しています。2020年12月より、食品表示基準の改定に対応し、「アーモンド」の情報をご確認いただけるようになりました。

栄養情報

標準的な製品仕様と調理から食品表示基準(食品表示法)に基づく栄養分析の数値を基本とし、一部の食材は「日本食品標準成分表2015年版(七訂)」(文部科学省)を引用し作成しています。

原産国情報

主要原料の原産国や最終加工国のお問い合わせ
しています。『主要原料原産国』は、「外食における
原産地表示に関するガイドライン」(農林水産省)
に準拠し、作成しています。

英語版のアレルギー・栄養情報

2020年9月末より、商品のアレルギー・栄養情報が英語でもご確認いただけるようになりました。ウェブページの最下部にある「日本語／English」で切り替えることができます。

栄養バランスチェック

1日に必要な栄養のうち、マクトナルドの商品がどれだけ補えるか(充足率)をチェックすることができます。管理栄養士による年代別アドバイスや栄養素の説明もあり、健康的な毎日にお役立ていただける食育コンテンツです。



https://www.mcdonalds.co.jp/products/nutrition/balance_check/



アレルギー検索

公開しているアレルギー情報をもとに、28品目に該当するアレルギー物質が原材料（食材）として使用されているかどうかを調べることができます。安心してお召し上がりいただけよう、メニューをお選びいただく際にお役立てください。



※ QRコードは(株)デンソーウエーブの登録商標です。

Planet

環境対応

環境保全

事業活動によって発生する環境負荷を把握し、その削減に努めることは私たちの果たすべき社会的責任のひとつと考えています。環境への影響、とりわけ原材料調達段階での影響について考えると、環境保全の重要性が見えてきます。そのため、マクドナルドでは環境認証を取得した原材料の導入を積極的に進めています。



環境保全（FSC®認証）

https://www.mcdonalds.co.jp/scale_for_good/our_planet/environment/



持続可能な食材の調達 (MSC認証、レインフォレスト・アライアンス認証、RSPO認証)

https://www.mcdonalds.co.jp/scale_for_good/our_food/sustainable_food_procurement/



森林保全 FSC®認証

森林の自然環境を守るために、店舗でお客様に提供する紙製容器包装類には、森林環境に配慮して作られた「FSC®認証」済みの資材を使用しています。また、店舗で使用している「トレイマット」もFSC®認証紙を使用しています。



責任ある森林管理
のマーク

詳しくは FSC®ジャパンのHPを
ご覧ください
<https://jp.fsc.org/jp-jp>



水産資源保全 MSC認証

人類共有の財産である水産資源を守るために、持続可能で環境に配慮した漁業で獲られた水産資源であることを示す「MSC認証」を取得した天然のアラスカ産スケソウダラをフィレオフィッシュに使用しています。



詳しくは MSCジャパンのHPを
ご覧ください
<https://www.msc.org/jp>



熱帯雨林保全 レインフォレスト・アライアンス認証

コーヒー栽培は気候変動による影響を受けやすく、気候変動によって栽培に適した栽培地域が移動する懸念があります。これに配慮し、お客様に提供するコーヒー豆は、森林や生態系を守り、労働者に適切な労働条件を提供する「レインフォレスト・アライアンス認証」を取得した農園で栽培されたものを100%使用しています。



詳しくは レインフォレスト・
アライアンスのHPをご覧ください
<https://www.rainforest-alliance.org/lang/ja>



持続可能なパーム油の調達 RSPO認証

パーム油は、世界で最も多く生産・消費されている植物油ですが、その生産は熱帯雨林やさまざまな生物の大規模な消失を招く恐れがあります。店舗で使用するフライオイルは、熱帯雨林や生物多様性、人々の生活に悪影響を及ぼさないことに配慮して生産されたことを示す「RSPO認証」を取得したパーム油を使用しています。



廃棄物対策

事業活動によって発生する廃棄物を削減しつつ、可能な限り廃棄物としないようにすることも果たすべき社会的責任と考えています。まずは自らの廃棄物の内容を把握することから始まり、「発生抑制」の推進、次に「再利用」「再生利用」の対策を講じていくことを基本として取り組んでおり、廃棄物に関連する環境に配慮したシステムの改善や容器包装類における素材検討なども常に進めています。

 https://www.mcdonalds.co.jp/scale_for_good/our_planet/waste/



総評

2020年は売上の増加（対前年比+7.3%）により廃棄物量は全体で増加（対前年比+3.4%）となりました。また、売上100万円あたりで見ると、食品廃棄物量は82.3kgとなり、食品リサイクル法に基づくファーストフード店の発生抑制目標83.3kgを下回っています。

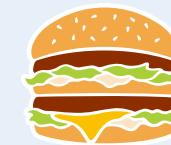
2020年 廃棄物発生状況

全店の食品・容器包装廃棄物量



全体
143.9千t/年

対前年比+3.4%



食品
47.6千t/年

対前年比+1.5%

食品
リサイクル率*

58.9%

※ 食品リサイクル定期報告に基づく発生抑制を含む



紙類
37.1千t/年

対前年比+5.1%



プラスチック類
5.7千t/年

対前年比+7.5%



梱包材など
53.5千t/年

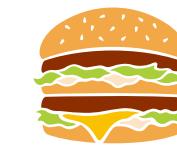
対前年比+3.5%

売上100万円あたりの 食品・容器包装廃棄物量



全体
249.0kg/百万円

対前年比▲3.7%



食品
82.3kg/百万円

対前年比▲5.5%

※ 食品リサイクル法に基づくファーストフード店の発生抑制目標値
=83.3 [kg/売上100万円]



紙類
64.2kg/百万円

対前年比▲1.9%



プラスチック類
9.9kg/百万円

対前年比+0.1%

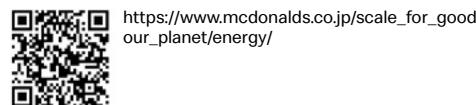


梱包材など
92.6kg/百万円

対前年比▲3.7%

エネルギー＆気候変動対策

地球温暖化や気候変動の問題は皆が自らのこととして取り組むべき課題であり、事業活動におけるエネルギー使用量の削減は私たちの高い優先課題に位置付けられています。マクドナルドのグローバル目標では、2015年比で2030年までに店舗のCO₂排出量を36%削減することを宣言しています。日本マクドナルドもこれに従いさまざまな対応の検討を開始しています。



総評

新型コロナウイルスの影響により、店内客席の利用一時中止、一部店舗の一時休業などの対応を行った結果、電気・ガス・水道の使用量は共に減少しました。これにより全体のエネルギー使用量が減少（原油換算値で対前年比▲3.1%）しましたが、来店客数も減少したことからレジカウント（客数）あたりの使用量は増加（対前年+5.2%）しました。温室効果ガス（CO₂）の排出量は減少（対前年比▲6.8%）しました。これはエネルギー使用量の減少と、電力会社の排出係数の減少（対前年比▲4.9%）によるものです。

2020年 エネルギー使用状況 & CO₂排出状況

全店の種別エネルギー使用状況



電気
62,592
万kWh/年
対前年比▲3.5%

ガス（都市ガス換算）
3,200
万m³/年
対前年比▲1.5%

水道
432.8
万トン/年
対前年比▲12.0%

お客様千人あたりの種別エネルギー使用状況



電気
469.3
kWh/千人
対前年比+4.8%

ガス（都市ガス換算）
24.0
m³/千人
対前年比+6.7%

水道
3.2
トン/千人
対前年比▲5.9%

全体のエネルギー使用状況 & CO₂排出量



原油換算値
199,496
キロリットル/年
対前年比▲3.1%

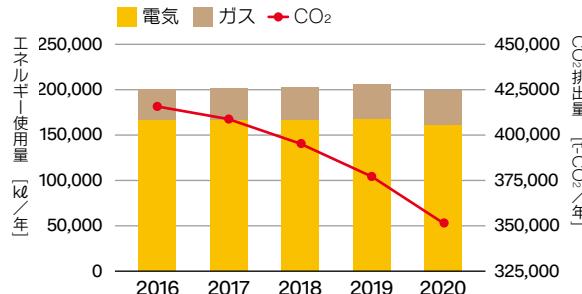
原単位原油換算値
0.2542
キロリットル/
千レジカウント
対前年比+5.2%

CO₂排出量
351,568
t-CO₂/年
対前年比▲6.8%
※ 原単位分母：千レジカウント
118.9
t-CO₂/店舗
対前年比▲8.9%

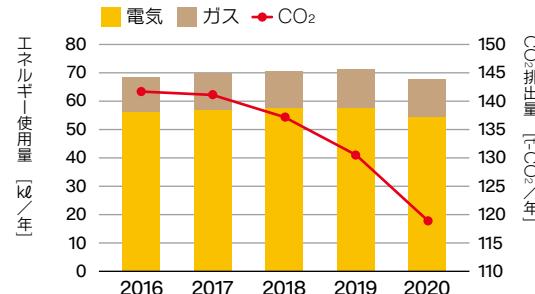
環境データ推移

環境にかかる過去5年間の推移をグラフで示しています。エネルギー使用量と、CO₂排出量を全店、店舗平均、客数原単位（1000レジカウント原単位）あたりに分けて示しています。廃棄物に関しては全店排出量、食品廃棄物量および食品リサイクル率、食品口数について示しています。また、オーダーメイド方式によるメイド・フォー・ユーの導入を開始してからの商品（完成品）廃棄量の20年推移を示しています。

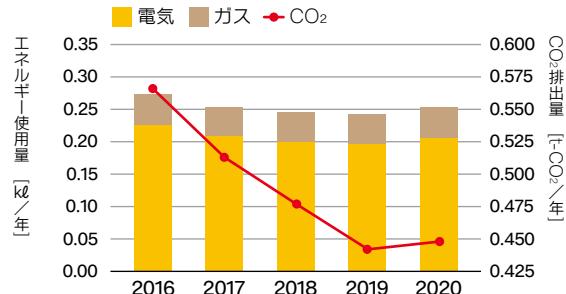
エネルギー使用量 & CO₂排出量（全店）



エネルギー使用量 & CO₂排出量（店舗平均）

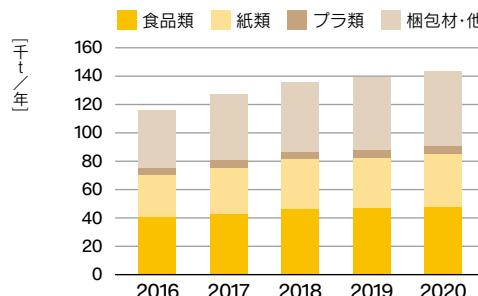


エネルギー使用量 & CO₂排出量（1000レジカウント原単位）



※ 排出量が前年より上がっているのは、2020年のレジカウント(客数)が前年より減少したことによるものです。

全店廃棄物排出量推移

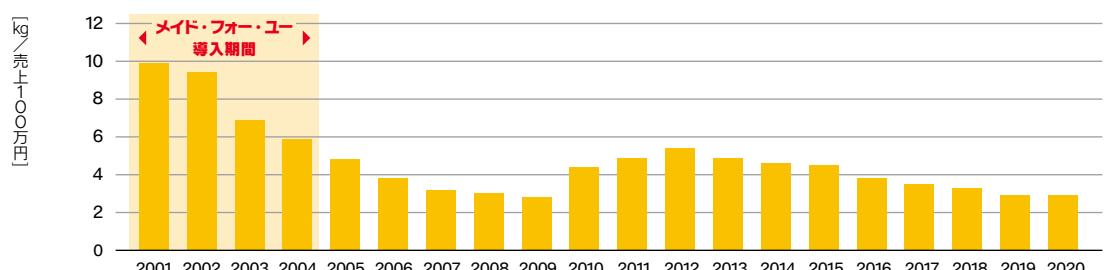


売上100万円あたりの食品廃棄量、食品リサイクル率



※ 食品リサイクル法に基づくファーストフード店の発生抑制目標値 = 83.3 [kg/売上100万円]

売上100万円あたりの商品廃棄量推移



↓

メイド・フォー・ユー

導入期間

全食品口数 & 売上100万円あたりの食品口数



メイド・フォー・ユーは注文を受けてから商品を作るシステムで、これにより商品廃棄（完成品廃棄）量が大きく減少しました。

Community

社会貢献活動

私たちの社会的責任

私たちはコミュニティの一員です。ご来店くださるお客様はもちろん、地域・社会において必要とされる存在でなければなりませんと考えています。お客様、そして地域・社会の皆さんに笑顔になっていただくために、さまざまな活動に取り組んでいます。

https://www.mcdonalds.co.jp/scale_for_good/our_communities/



ドナルド・マクドナルド・ハウス支援

「ドナルド・マクドナルド・ハウス」は、病気と闘う子供とその家族のための病院のすぐそばに建てられた滞在施設です。現在は全国に11カ所あり、日本マクドナルドは国内1号となる「せたがやハウス」が開設された当初から継続して支援しています。全国すべての店舗に設置している募金箱や、マツツハッピーデーをはじめとするさまざまなチャリティ活動を通じてお寄せいただいた募金は、すべてハウスの運営・建設のために使われています。

https://www.mcdonalds.co.jp/scale_for_good/our_communities/dmhcj/



ドナルド・マクドナルド・ハウス・チャリティーズ・ジャパンHP
<https://www.dmhcj.or.jp/>



スポーツ支援

子どもたちの心と体の健全な成長を願って、学童野球、小学生のサッカーを支援しています。

学童野球

(高円宮賜杯 全日本学童軟式野球大会
マクドナルド・トーナメント)



小学生のサッカー

(JFA 全日本U-12サッカー選手権大会)



12歳以下の選手で構成される全国約8,300チーム・約24万人が目指す日本最大規模の大会で、マクドナルドは2011年からサポートしています。2020年大会は、新型コロナウイルス感染防止対策のもと、開催されました。2020年も支援活動の一環として、小冊子『サッカーブレイブック2020』を大会登録チームに所属する選手に配布しました。

https://www.mcdonalds.co.jp/scale_for_good/our_communities/sports/football/



Community

社会貢献活動



食育支援

子供たちが楽しく食べる喜びを知り、食に関する正しい知識と習慣を身に付けてもらいたいという願いから食育支援を行っています。2005年からオリジナルのデジタル教材「食育の時間」を通じて小学校の食育授業をサポートしています。2019年に成長期の子供たちが知つておきたい「食にまつわる7つの基本」が学べる教材「食育の時間+(プラス)」としてリニューアルし、新しく食物アレルギーと食品ロスをテーマとして加えました。教材提供だけにとどまらず、「食育授業支援事務局」を設置し、教材コンテンツを収録したDVD付き指導案の配布や教具の貸し出しなど、先生方の授業づくりのサポートも行っています。

https://www.mcdonalds.co.jp/scale_for_good/our_communities/food_education_support/



キャリア教育支援

マクドナルドの人を育てるノウハウを活かし、幼児から小学校、中学校、高等学校と子供の成長段階に応じて、食育や店舗実習といった業態を活かしたさまざまな教育支援プログラムを用意しています。

https://www.mcdonalds.co.jp/scale_for_good/our_communities/mc_discovery/



地域貢献活動

「あなたの街と共にマクドナルド」として、安全で安心な活気のある街づくりを目指して、地域貢献活動を行っています。



安全笛

子供たちの安全をサポートするため、毎年全国の新小学1年生に「安全笛」を贈呈しています。地域の教育委員会や警察本部等を通じて配布していただけであり、2020年度配布分から交通安全をさらに考慮して夜間に車や自転車から確認できるよう反射板を両面に取り付けました。改良した安全笛は、反射効果のあるすぐれた製品として一般社団法人 日本反射材普及協会に認定され「JPマーク」を取得しています。
(JPマーク認定番号 190001)



子育て支援

国と地方自治体が推進する「子育て支援パスポート事業」に協力し、各都道府県が発行している「子育て支援パスポート」を全国のマクドナルドでご提示いただくと「チーズバーガーのハッピーセット」を特別価格でお召し上がりいただけます。

※ 朝食時間帯（10:30まで）はハッピーセットの「チキンマックナゲットセット」を特別価格でご提供。



こども110番の家

地域の警察本部と協力して、地域の子供たちの安全を守るため、子供が危険に遭遇した際や困ったことが起きた際などに、マクドナルド店舗に駆け込んで助けを求めることができる「こども110番の家」の活動を推進しています。

ハロードナルド！

未就学児と小学校低学年を対象に、子供たちの日常生活に必要な「食育」「交通」「防犯」「環境」などのルールやマナーを伝えるプログラムを幼稚園や保育園、小学校で実施しています。

新型コロナウイルスの影響により実施が難しい状況に対応するため、子供たちに向けたドナルド・マクドナルド出演動画を制作し、期間限定で公開しました。



<https://www.mcdonalds.co.jp/family/helldonald/>

People

雇用と人材

人材の考え方と取り組み

マクドナルドは、企業の成長を支えるのは「人」そのものであるという考え方から、社員やクルーが成長し活躍できる働き方を大切にしています。これを実現させるためにすべての社員およびクルーに向けて約束していることがあります。それは「マクドナルドは従業員の皆さんとその成長および貢献を、価値あるものとして大切にする」ということです。社員とクルー一人ひとりに成長の機会を提供し、能力を高め、リーダーを育て、功績に報いることでマクドナルドで働くすべての人を尊重しています。



https://www.mcdonalds.co.jp/scale_for_good/our_people/diversity_and_inclusion/

多様な人材の活躍推進

- ・若い世代の育成・就労支援
- ・女性の活躍
- ・プレミアムエイジ（シニア）の活躍
- ・障がい者の雇用

多様な働き方の推進

- ・ワークライフバランス
フレックスタイム & 在宅勤務
年次有給休暇取得の推進
- ・出産・育児・介護支援
育児・介護休暇制度
短時間勤務制度

キャリア開発の推進

- ・キャリアアップ支援
- ・人事評価制度
PDS (Performance Development System)
業績達成と個人の成長を連動させた評価制度
- ・教育機関（ハンバーガー大学）
人材育成とシステム開発の構築



People

雇用と人材

ダイバーシティ & インクルージョン

マクドナルドは企業活動において「人」を最重要と考えてあり、性別、年齢、さまざまな個性、バックグラウンドを持つ多様な人材が、個々の強みを活かせる職場環境が重要と考えています。そのために「多様性を積極的に受け入れる」という姿勢を雇用と人材の基本と考えています。それぞれの人材が自らの強みを発揮することにより、自己の成長を促すとともに職場や組織の成長につながり、マクドナルドを支えていくと考えています。

若い世代の育成・就労支援

これまでの職場での教育と訓練の機会を提供するばかりでなく、多様性に富んだ職場環境で育まれるチームプレーを通じ、企業や社会の中でどの様に振る舞うべきかを知る場として、若い世代の育成・就労を支援しています。

女性の活躍

多様性を積極的に受け入れること、その中でも女性の活躍推進は、ビジネスの継続的な成長を達成する上で喫緊の課題と考え、特にジェンダー（性別）にフォーカスした活動を展開しています。例えば、出産や育児といったライフイベントの変化によりキャリアアップを諦めることなく継続的に働く職場環境や制度の充実を図っています。

https://www.mcdonalds.co.jp/scale_for_good/our_people/diversity_and_inclusion/womens_success/



障がい者の雇用

多様な人材を受け入れることは、障がいのあるなしに関係ありません。マクドナルドには、すべての従業員が仲間であり、チームとしてお互いに教え合い励まし合うことで、共に働く喜びを分かち合い、障がいがあつてもそれは特別なことではなく、活躍できる場を提供しています。

https://www.mcdonalds.co.jp/scale_for_good/our_people/diversity_and_inclusion/disabled/



人事評価制度

PDS : Performance Development System

単なる業績評価ではなく、個人と企業の2つを共に成長させることを目的とし、業績達成と個人の成長を連動させた評価制度（PDS）を採用しています。日々の実績の中で、目標達成レベルと行動レベルに基づいた評価を実施しています。

教育機関 ハンバーガー大学

働くすべての人々が、学び、成長し続ける企業であるために、ハンバーガー大学があります。最新の教育理論および手法を用いて、人材育成と、そのシステム開発に取り組む専門教育機関です。ハンバーガー大学で身に付けるスキルは、一人ひとりの成長を加速し可能性を拓げてくれます。

https://www.mcdonalds.co.jp/scale_for_good/our_people/university/



SDGsとマクドナルド

https://www.mcdonalds.co.jp/scale_for_good/sdgs/



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



持続可能な食材の調達	●			●			●		●		●		●		●		●
ドナルド・マクドナルド・ハウス支援		●								●							●
スポーツ支援（学童野球、小学生のサッカー）		●															●
食育支援	●			●													●
地域貢献	●				●					●							●
防犯安全教室					●												●
ピープルビジョン								●									●
ダイバーシティ&インクルージョン						●			●								●
ハンバーガー大学									●								●
Our People										●							●
エネルギー対策							●					●					●
廃棄物対策									●			●					●
パッケージ&リサイクル										●		●		●			●
ハッピーセットのおもちゃリサイクル									●								●
環境保全											●		●				●
コーポレート・ガバナンス													●				●

第三者意見

新型コロナウイルス感染症の拡大により、2020年はさまざまな課題が顕在化しました。こうした状況下、社会的責任を果たすべく、「食、環境、社会貢献、人材」に関連する課題に対し、積極的な取り組みを実践されていることがCSRレポートからうかがえます。

新型コロナウイルスへの対応はもとより、衛生管理を徹底し、食の安全・安心を強化しているとのことで安心感を覚えます。

環境対応については、国際的に認知され信頼性の高い認証を取得した原材料を積極的に導入していることは大いに評価できます。また、CO₂排出量が減少していることは評価に値しますし、通常営業への回帰後もさらなる削減に努められるものと信じます。一方で、廃棄物量は全体として微増であったことから、「発生抑制」も含め、削減に向けたさらなる取り組みを期待します。

厳しい状況下、社会貢献活動の規模を維持し、教育支援を拡大したことについては大変な努力があったと察します。重要度が増しているダイバーシティや女性の活躍への取り組みは先進的で、今後も社会を牽引していただきたいと思います。

これまで経験したことのない状況がもたらされる中、人々の生活に欠かせない「食」の業界において、新たな社会・環境課題にも取り組むとともに、SDGsへの貢献につながる活動をより充実されることを期待しています。



一般社団法人 MSCジャパン
プログラム・ディレクター
石井 幸造